

会 議 録

会 議 名	令和 6 年度 第 2 回山形市少年自然の家運営協議会
開催日時	令和 7 年 2 月 1 2 日（水） 9：30～12：00
開催場所	山形市少年自然の家 研修室
主 催	山形市少年自然の家
出 席 者	出席委員 山口 雅和、長沼 政直、辻原 吉子、畑 秀生、安達 和弘、 黒沼 末八、大嶋 民代、横倉 明、奥山 健悦、黒木 佳昭
事 務 局	金沢 智也 教育長、高橋 一実 教育部長 少年自然の家 和田 裕樹 所長 金山 治行 副所長 菅野 研一 管理係長 森山 真澄 指導主事 横山 誠 主幹
議 題	令和 6 年度事業報告・施設利用報告 令和 6 年度運営方針・事業計画・施設利用予定 等
資 料	令和 6 年度 第 2 回山形市少年自然の家運営協議会 資料
傍 聴 者	1 名
作 成 者	主幹 横山 誠

会議経過

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 運営協議会長あいさつ
- 4 協議

少年自然の家条例施行規則により、黒木会長を議長に選任

- (1) 令和 6 年度事業報告について
- (2) 令和 6 年度利用状況について

事務局より、資料を用いて報告。

委員 森の昆虫見つけ隊に参加する子供のレベルが上がってきた。本当に昆虫が好きな子が増えてきたように思う。以前から知っている子だったが、昨年小 6 で参加した子が生物分類技能検定 3 級をとった。小 6 での合格は最年少だった。今年の中 1 でビオトープ施工管理士 2 級を取得した。大変優秀な子で紹介したかった。沢山参加してもらうなかから一生懸命やってくれる子もでてきてありがたく思っている。

委員 アレルギー対応や夜間や服薬の補助などでだんだん子供たちを宿泊させることが容易ではなくなっていると思う。以前は職員 1 人で 10 人程度の子供をみていたが、より手厚いケアが必要となっていており職員 1 人でみることができるのは 4、5 人程度になってきている。その中で泊まる機会を用意してもらえるのはありがたく思う。

また、学校活動では WBGT の対応を気にしている。自然の家ではどのように対策しているのか。

事務局 今年度、熱中症指数計を追加で購入し本館とサービスセンターに設置している。団体利用時は 1 時間ごとに指数を計測、随時情報提供している。状況により学校に指数計の貸出しも行う。もし体調不良となったら保健室で休んでもらったりするなど自然の家の養護職

員が対応を行っている。

委員 屋内での対策はどのようにしているのか。

事務局 体育館等屋内で活動しているばあいは、体育館入口付近で計測を行っている。

委員 中学校では教育課程を編成する中で宿泊を伴う活動難しくなっている。規模の小さい学校だと学年を担当する教師が少なく、修学旅行と同時に1、2年生が体験活動を行うと指導者が足りない。養護教諭が修学旅行に同行するので、自然の家に養護の職員がいるのは心強い。

(3) 令和7年度運営方針（案）について

(4) 令和7年度事業計画（案）について

事務局より、資料を用いて報告。

委員 成果指標の利用目標数で、中学校を令和6年度実績の6校から令和7年度12校と設定した意図は。

事務局 中学校は年により利用したりしなかったりする学校もある。全15校の利用を目指して増やしていきたいとの考えで来年度目標12校としている。

委員 青年会議所でも中学生対象の女性青少年育成事業を実施している。もし事業で利用したい場合受け入れは可能か。

事務局 他の団体の利用もあり日程の相談が必要だが受け入れは可能である。

委員 7ページの利用目標あるが、受け入れ予定との係わりはどうか。

事務局 来年度中学校の目標は12校としているが、利用予定は今年度と同じ6校の申込みである。十中が久々に利用復活してもらったが、毎年利用あった学校で申込みがなくなり令和6年度と同じ6校の利用予定となった、引き続き利用の呼びかけを継続していく考えである。

(5) 令和7年度利用予定について

事務局より、資料を用いて説明。

委員 先日新聞でインターハイのジャンプ競技で優勝した布施飛雄真選手が取り上げられたが、彼は2018年まで自然の家で開催されていたジャンプ体験会に参加していた。私の子ども体験会に参加をきっかけに国体の強化選手として活動している。現在競技人口が減ってきており、山形市としてまた取り組みしてもらいたいと思う。

事務局 山形市としてはスポーツ課が担当部署となるため連絡を取りながらできることを検討していきたい。

委員 主催事業に中学生はどれくらい参加しているのか。また、親子参加の事業は小学校低学年が対象となっているが、高学年も対象とした親子の触れ合いができる事業もあってよいのではないかと思う。

事務局 中学生は サマーキャンプとウィンターキャンプに各1名の参加であった。参加してくれた子はこれまで何度も事業に参加してもらっているリピーターの方である。受験もあるため募集対象を中学2年生までとしているが、多くの方に参加いただけるよう周知を図りたい。

親子参加事業である、親子ふれあい自然体験は低学年対象であるが多数の申込みを受けている。家族でキャンプ体験も人気があり高学年の子の参加もあるなど幅広い市民の参加をいただき、家族のふれあいの機会を提供している。

委員 急な拡充難しいが検討してもらいたい。募集方法もこう市報だけではなく、SNSの

活用など検討してもらえれば。

委員 野外活動でウォークラリー等行っている団体も多いと思う。ウォークラリーはどのような形で行っているのか。

事務局 自然の家では様々なウォークラリーやナイトハイクのコースを準備しており、利用団体は団体の指導者のもと安全に実施いただいている。主催事業では自然の家のスタッフが要所に立って参加者の安全を見守っているが、熊の出没もありナイトハイクは実施が難しくなっている。また、熱中症への対応の問題なども、指導者講習会等の機会にリスクマネジメントとして利用団体に認識してもらい安全に実施できるようにしていきたい。

委員 PRの方法について、県民の森の事業ではSNSも含め様々な方法で募集しているがなかなか参加者が集まらない。共催した1月の和かんじきで冬の森散歩については市報に掲載されたこともあり応募が多かった。自然の家と県民の森を一体のエリアと捉えて市報に掲載してもらうことはできないか。

事務局 市報への掲載は広報課で基準を設けていると記憶している。広報課に確認させてもらいたい。

委員 先日のウィンターキャンプの時に、板橋沼でワカサギ釣り体験をしてもらった。例年、十和田湖からワカサギの卵を仕入れて放流していたのだが、環境の変化で6年度は卵が取れず稚魚2万尾を仕入れて放流した。7年度は北海道の網走から卵を空輸して増殖する計画である。現在ブラックバスやブルーギルが悪者にされているが、放流したのは人間であり人間が生態系を変えてしまったことが問題である。環境を変えてしまうと元には戻せないということをお子たちに教えていってもらいたい。

委員 バス代については年度当初の利用申込みで助成が決まるのは理解しているが、小中学校で探求型学習に力を入れている状況もあり、年度途中でもプラネタリウムや生活科の学習で自然の家に来たいとなった時にバス利用助成を追加してもらえるとありがたい。また、生活体験の家の活用事業についてだが、先日ききみみの会の方と話をした際に、生活体験の家ができた当初に読み聞かせの会を行ったとの話やまたそのような会があるといいなと伺ったところである。

委員 昔話語りの様なことには合うのでないか。検討してもらえれば。

委員 生涯学習の推進に係わるが、一般市民で高齢の方も自然体験ができるコースはあるのか。

事務局 特に高齢の方向けとしたコース設定はしていないが、サービスセンター周辺や運動広場周辺などの歩道を散策いただければと想定している。

委員 町内会の高齢者が参加するいきいきサロンなどが見学して楽しんでもらうコースがあれば良いと考えたところである。

事務局 団体での利用であれば、相談をしてもらえれば職員がコース等提案させてもらう

委員 県民の森でも案内人をつけて対応は可能である。相談していただければ。

(6) その他

事務局より、口頭で「仮称 山形市自然の家検討事業」の進捗状況について説明。

質疑等なし

5 閉会

6 利用団体活動状況視察（ゲレンデ・サービスセンター）

活動団体 山形市立滝山小学校 1 学年

山形市立西小学校 1、2 学年